

議題

1. ライフステージに応じたスポーツ実施の在り方について
2. 地域スポーツ環境の整備について

検討の視点

○ 第二期スポーツ基本計画では、スポーツ参画人口の拡大のための施策として、「若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進」や「学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上」、「ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけ」を掲げているところ。

「スポーツ実施率向上のための行動計画」等を作成し、ターゲットに応じたスポーツ実施の促進を目指してきたが、成人の週1回のスポーツ実施率は現在59.9%（障害者は24.9%）にとどまっており、第二期スポーツ基本計画で掲げた目標（同65%程度（40%程度））には届いていない。

第二期スポーツ基本計画策定時と比べ少子高齢化が進み、また、新型コロナウイルス感染症の拡大等を受け、これまでのスポーツの実施の形態も変わりゆく中、子供の体力低下、在宅勤務の増加によるビジネスパーソンの行動変化、外出自粛による健康二次被害など、国民のライフスタイルには多様な変化が生じている。

こうした状況を踏まえ、第15回部会において議論したスポーツ実施に関する目標の達成に向け、ライフステージに応じたスポーツ実施の在り方及びその促進方法について、改めて検討することが必要ではないか。

また、運動・スポーツの実施阻害要因としては、「仕事や家事が忙しい」、「面倒くさい」、「お金に余裕がない」といった個人的事情が上位に挙げられるほか、「場所や施設がない」、「仲間がない」という環境に起因する理由も挙げられているが¹、こうした課題を解決するのは、地域スポーツ環境の整備と言える。

今後、運動部活動改革の流れにおいて、休日の運動部活動の段階的な地域移行に伴い地域スポーツ環境にその受け皿としての役割が求められること、ライフステージの各段

¹ 運動・スポーツを「週に1回以上実施できない」または「直近1年に運動をしなかった理由」として挙げられた回答では、「仕事や家事が忙しいから」：47.0%、「面倒くさいから」：42.5%、「年をとったから」：20.3%、「お金に余裕がないから」：18.1%、「コロナウイルス感染症対策による日常生活の変化」：17.2%、「仲間がないから」：13.1%、「場所や施設がないから」12.8%となっている（令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）

階における健康課題の解決方法として、医療・介護とスポーツの連携に対する期待が高まっていること等も踏まえ、地域スポーツ環境のあるべき姿について議論を深め、その実現のために取り得る方策について、改めて検討することが必要ではないか。

検討の論点

<子供のスポーツ実施について>

- 子供の体力向上のためには幼児期からの運動習慣作りが必要とされているが、幼児期の運動能力については、水準の高かった1980年代と比べ低い水準にある¹。
幼児期には保護者や保育者などの周囲の大人の影響を受けやすいことから、こうした人々への働きかけが必要と考えられるが、幼児期のスポーツの重要性や効果的な運動遊びのノウハウ等について保護者や保育者などの理解を促進する効果的な方策はないか。
- 子供の地域スポーツ環境（例えば、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間のスポーツクラブ・フィットネスジム等）については、今後どのような姿を目指し、具体的にどのような取組を行っていくべきか。
- 部活動の段階的な地域移行の受け皿の整備を進めるために、具体的にどのような取組を行っていくべきか。
- 生涯におけるスポーツ実施促進のために、体育授業等における運動嫌いを減らすための取組が必要と考えられるが、体育授業の改善について、どのような視点で取り組んでいくべきか。

<働く世代・子育て世代のスポーツ実施について>

- スポーツ実施率が低い働く世代、子育て世代のスポーツ実施環境の整備や、一日の生活パターンに運動習慣を組み込む方法について、具体的にどのような取組を行っていくべきか。
- ビジネスパーソンへのスポーツ実施に関しては企業等を通じた普及啓発活動が重要になると考えられるが、健康経営の概念等と関連づけて企業のメリットを示す等の取組みが

¹ 科学研究費助成事業 研究成果報告書（2018）「幼児の運動能力の現状と運動発達促進のための運動指導及び家庭環境に関する研究」より

必要ではないか。

- 特に若い世代等に対しては「美容」や「格好良さ」など健康以外の面も含めたスポーツのプラスイメージを浸透させる等、ターゲットに応じた伝え方の工夫が必要ではないか。

<高齢者のスポーツ実施について>

- 高齢者のスポーツ実施に関し、スポーツを活用したコミュニティづくりといった観点から、今後どのようなあり方を目指し、具体的にどのような取組を行っていくべきか。
- 高齢者のスポーツ実施に関しては、医療・介護的な観点からの運動不足防止という側面も比較的強くなるものと考えられるが、地域包括ケアが進む中、医療・介護とスポーツとの連携に関しては、具体的にどのような取組を行っていくべきか。

<女性のスポーツ実施について>

- 女性のスポーツ実施については、骨粗しょう症など女性に多い健康障害の問題、若年女性の「やせ」の問題、妊産婦の運動不足による健康問題、子育て期の女性のメンタルヘルスの問題など、ライフステージに応じ多様な課題が存在するが、どのような課題に焦点を当て、各課題についてどのような普及啓発及び環境整備を行っていくべきか。
- 女性のスポーツ実施率は、男性と比べ、特に若年期において顕著に低い値となっている¹。若年期のスポーツ運動経験の有無は、将来の健康に大きく影響することも考慮し、特に若年期女性に着目した施策を講じるべきではないか。
- 女性のスポーツ実施については、育児等による忙しさが大きな阻害要因となっている²が、こうした問題について、どのような対策をとっていくべきか。

<障害者のスポーツ実施について>

¹ 週1日以上スポーツ実施率の男女差は、全体では2.7ポイント（男性61.4%、女性58.7%）であるのに対し、20代では6.2ポイント（男性61.3%、女性55.1%）、30代では8.0ポイント（男性59.0%、女性51.0%）となっている。（令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）

² 運動・スポーツを「週に1回以上実施できない」または「直近1年に運動をしなかった」理由として「子どもに手がかかるから」と回答した人の割合は、全体で11.7%、30代の男性で24.3%であるのに対し、30代の女性では40.2%

- 障害のある方については、情報、設備、スポーツの場などの観点からスポーツ実施に係る環境の整備が必要とされていると考えられるが、そうした環境の整備のため、具体的にどのような取組が必要か。
- 障害者スポーツの普及促進においては、障害のある方とない方が「ともに」スポーツをする環境の構築が重要になると考えられるが、具体的にどのような取組を行っていくべきか。
- 障害者については、スポーツ非実施者や無関心層の割合が比較的高くなっているが¹、こうした層のスポーツに対する関心を惹起するために、どのような取組を行っていけば良いか。

<ライフステージを横断した課題について>

- 人々がスポーツに求める価値として、健康・体力の保持増進、人と人との交流創出、精神的な充足感の獲得といった多様な要素が挙げられるが²、こうした多様なニーズに応えるために、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、民間のスポーツクラブ・フィットネスジムなどの地域スポーツ環境を担う拠点それぞれにどのような役割を期待するのか。
- 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツ拠点の更なる活用に向けては、既存の拠点の連携を促進するためのコーディネーターの発掘・育成やリエゾン組織の構築が必要になると考えられるが、具体的にどのような取組が有効か。
- 安定的、継続的な地域スポーツ活動の実施のためには、地域スポーツ拠点の財源不足が課題となるが、今後どのような形で財源確保を行っていけば良いか。
- 各ライフステージに向けたスポーツ実施に係る普及啓発活動に向け、大学・研究機関とも連携しスポーツの心身への健康効果等に係る検証等が必要になると考えられるが、どのような取組を行っていくべきか。

となっている。（令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）

¹ 過去1年間に1度も運動・スポーツを行わなかったスポーツ非実施者層について、成人全体では16.7%であったのに対して、障害者では53.6%となっている。（令和2年度「スポーツの実施状況に関する世論調査」、令和2年度「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」より）

² 運動・スポーツがもたらす価値についての回答の上位3項目は、「健康・体力の保持増進」：77.0%、「人と人との交流」：53.0%、「精神的な充足感」：47.5%となっている。（令和2年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より）